

5 放射線性膀胱炎などによる血尿に対する 漢方薬の効果

ベルランド総合病院泌尿器科

清水 一希、玉田 聡、松岡 悠大
呉 偉俊、大町 哲史

はじめに

骨盤内の放射線治療に起因する放射線性出血性膀胱炎は、放射線治療の合併症のなかでも治療困難なものの1つである。以前、我々は骨盤内放射線治療後に出血性膀胱炎を発症した患者に対し、慢性化した排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿などに用いられる猪苓湯合四物湯を用いて放射線性出血性膀胱炎に伴う血尿に対する有効性について報告した(日本東洋医学雑誌、掲載予定)。そこで今回さらに症例を追加してその有効性を検証するとともに、それ以外の疾患に対しても猪苓湯合四物湯が有効であった症例を経験したので併せて報告する。

対象

2017年から現在まで猪苓湯合四物湯を処方した22人(放射線性出血性膀胱炎17人、出血性膀胱炎2人、前立腺全摘後2人、前立腺肥大症1人)を対象とした。猪苓湯合四物湯エキス顆粒(ツムラ)は7.5g/1日分3で投与した。観察期間の中央値は15.1ヶ月であった。

結果

22例中19例で血尿は消失した。猪苓湯合四物湯の投与期間の中央値は65日であり、投与開始から血尿消失までの中央値は18日であった。無効であった3例のうち1例は尿路変向術、2例には経尿道的手術が行われた。前立腺全摘後の尿道カテーテル抜去後すぐに血尿、排尿時痛、排尿困難を認めた2例に対して猪苓湯合四物湯を投与したところ症状は速やかに改善した。全例において猪苓湯合四物湯使用に伴う有害事象は認めなかった。

考察

猪苓湯合四物湯は、猪苓湯と四物湯を組み合わせた処方であり、臨床では慢性で再発を繰り返す尿路系疾患に使用されている。猪苓湯は尿道炎、血尿、排尿痛、腎石症等に使用され、ここに血管弛緩作用、貧血改善作用、抗炎症作用を持ち、慢性的に体力が低下した患者に使用する四物湯を組み合わせることにより、繰り返し発生する尿道炎や血尿に効果があると考えられている。今回放射線性膀胱炎以外の症例にも用いて検討したところ、前立腺全摘後の血尿、排尿障害でも有用である可能性が考えられた。

結語

種々の血尿を伴う排尿障害に対して猪苓湯合四物湯は有用である可能性が示されたと共に、患者のQOL改善に貢献できる可能性がある薬剤だと考えられた。